

速報

(2013年9月1日)

Empowering You
Enabling
Inclusive Growth



UNI Apro 印刷・パッケージング部会委員会・大会

(2013年9月1日、バンコク)

UNI Apro 印刷・パッケージング部会大会

UNI Apro 印刷・パッケージング部会委員会の後、8カ国 15加盟組織、14名（男性 11名、女性 3名）の代議員を含む計 46名が参加し、UNI Apro 印刷・パッケージング部会大会が開催された。

ロレイン・キャシン UNI Apro 印刷・パッケージング部会議長は開会の挨拶で、参加者を歓迎した。続いて、クリストファー・ウン UNI Apro 地域書記長は、「この地域の印刷・パッケージング分野は、まだ未組織労働者が多い。今回の大会は地域の部会再興という意味で大きな意味を持っている。私自身が、UNI Apro 印刷部会担当部長として、しっかりとサポートを行う決意だ。活動基金を通じて財政面でも大きく支えていきたい。覚悟を決めて戦略を共につくっていこう」と挨拶した。

アンディ・スノッディ UNI 世界印刷・パッケージング部会担当局長は次のように報告した。「新聞・出版分野で技術革新が進んでいる。新聞・雑誌の販売部数の減少傾向はこれからも進んでいこう。英国では今年、Kindleの電子書籍が初めてハード書籍の販売を上回ったと発表されており、印刷を取巻く状況は厳しい。アジアでは、アムコールが生産拠点を倍増する計画を持っている。我々の中心は組織化だ。2007年から一連のプロジェクトがあり、多国籍企業を中心にセミナーを行っている。」



竹井京二副議長（全印刷）は、「自民政権下で状況は非常に厳しいが、ゆるぎない雇用の確保を基本に据え、セキュリティ印刷は国の責任で実施すべき点を確認・発信していく」と述べ、国会議員対策や連合を中心とした共闘組織対策など、戦略をまとめて運動を強化していくと報告した。

ジョージ・コリン代議員（ニュージーランド）は、「デジタル化が進み、5年後に新聞が存在するかどうか分からない状況。反労組的な保守政権によって、労働条件が引き下げられている」と訴えた。またネパールの参加者は、「インフォーマルな雇用形態が多く、職場によっては雇用関係が明確ではない。労働法を実効化するためのキャンペーン、組織化、労働者の技能研修を行っている」と報告した。イカ・ユリアンティ代議員（インドネシア）は、「ASPEKに加盟する印刷産業の組合が協力して印刷労働者の賃金や社会保障を向上させる取組みをしている。キンバリー・クラーク、アムコールの組織化を進めている」と報告した。また、インドネシアのキンバリー・クラーク労組の委員長は、長い道のりを経て去年ようやく労組結成と 30%の賃上げを獲得したことを報告し、600名の組合員のうち半数を占める派遣・契約労働者の正規雇用化と、社会保険や夜間手当が支払われていない問題に取り組んでいることについても言及した。

キャシン議長は、オーストラリアの状況について、「グラフィカル部門では、従来型の企業で組合員数が減少しているが、オンライン出版やウェブ制作会社で組合員数を増やしている。一方、オンライン化が進む新聞部門は大幅な人員削減があり、状況は極めて厳しい」と述べ、反労組政策をとる保守政権が、「生産性とフレキシビリティ」という言葉を使い、



速報

(2013年9月1日)

Empowering You
Enabling
Inclusive Growth



UNI Apro 印刷・パッケージング部会委員会・大会

(2013年9月1日、バンコク)

労働組合が同国の発展を阻んでいるというネガティブ・キャンペーンを打っており、これに対抗しなければならないと訴えた。

続いて大江史浩代議員（新聞労連）が、日本の新聞業界の現状と課題、組合の活動を紹介した。新聞業界全体で部数と売上が大幅に減少し、従業員数も2000年の5万6,500人から2012年の4万4,300人と大きく削減したこと、その原因として大手新聞社では1990年代から人件費抑制を目的に、印刷部門はほぼ別会社化された点に言及した。もともと職種別ではなく企業別の組合であったので、別会社となると組織化ができなくなり、別会社の社員に各社で組合を立ち上げてもらう、その組織化の促進とサポートを行っていると報告した。



オブザーバーとして参加した印刷労連の釣本利幸委員長は、「印刷労連は8月30日に大会があり、UNI正式加盟の決定がなされた。各国の皆さんと連帯と情報交換を図っていきたい」と挨拶し、印刷労連の組織紹介を行うとともに、日本の印刷関連産業の状況は厳しいものの、電子書籍やなど、将来性ある分野についても言及し、労使が一体となって印刷産業の課題解決に取り組むことが重要であると主張した。

アラン・テート UNI SCORE 担当局長からは UNI SCORE の趣旨についての説明があった。AMCOR 組織化の状況も報告され、同様に支援を必要としているところには支援を行いたいと発言があった。また、多国籍企業の中でいかに労組同盟を構築し、すでに存在するところではいかに強化していくかが重要であると述べた。

UNI Apro 印刷・パッケージング部会委員会は過去、同部会の欧州委員会に合わせて開催されてきたが、次回以降は Apro 地域で開催する提案が出され、確認された。アンディ・スノッディ担当局長は、次期主要目標について次の通り提案した。実行可能な計画として、①オルグの強化（オルグ担当者の育成・管理）、②グローバル協定の締結、③組織化キャンペーン、④ネットワークの構築と強化、⑤組織化の5点が挙げられ、採択された。

